

来年の干支は「亥」。  
日本では猪突猛進というイメージが強いですが、イタリアのフィレンツェにはイノシシの像があり、その鼻を撫でると幸運が訪れると言われ、多くの人に愛されているのだそうです。  
今回紹介するのは、伊達市産イノシシ革を使い、地元の女性たちが丹精込めて手作りする、ブランド「ino-DATE（イノイ達）」です。

命に感謝して  
やさしさと温もりを伝えたい  
ファーストシューズ



一般社団法人  
伊達市農林業振興公社  
【福島県伊達市】

福島県から茨城県にかけて南北に走る阿武隈山系は自然豊かで、野生動物も数多く生息しています。その麓の伊達市は肥沃な大地に恵まれ、農業が盛んなまちとして知られています。

近年、野生動物による農作物への被害が全国的に拡がりを見せていますが、伊達市では特にイノシシによる被害が大きな問題となっていました。侵入防止柵の設置など対策を取ってききましたが、それだけでは被害が抑えられず、年間約1400頭を捕獲せざるを得ない状況でした。

「大切な命ですから、駆除だけではなく、資源として地域振興へ活かせないかと当初は食肉としての加工を考えました」と話すのは伊達市農林業振興公社・代表理事の長谷部雅彦さん。しかし、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で食肉が出荷制限となり、断念せざるを得ませんでした。

そうした壁を乗り越える力となったのが、地元の人々たちの「地元を元気にしたい」という強い想いでした。

「イノシシ革は、柔らかくて摩擦にも強く、軽量。毛穴が多い



①



③



②



⑦



④



⑥



⑤



⑧

ので通気性にも優れた材質なんです。活用法を考えていた時に、桑折町靴専門店の方から「赤ちゃんに初めてはかせるファーストシューズはどう？」とヒントをいただき、そこから構想が広がりました」と話すのは製品のデザインを担当している齋藤知世さん。その後も福島市の革小物店に協力いただくなど、地元を中心にたくさんの方の支えがあったといいます。

そして平成28年、「ファーストシューズ」の販売を開始。さらに、おあかさやとおとうさんがお子さんのために手作りできる作成キットも製品化。お孫さんのためにと完成品の購入をされる方もいて、ファーストシューズは人気商品となっています。

ファーストシューズ以外にも、キーホルダーやパスケース、アクセサリなど「ino-DATE」ブランドは、続々製品が誕生しています。革の風合いを生かしたこれらの製品はすべてハンドメイド。地元の女性たちがひとつひとつの工程を丁寧に仕上げています。手にすると、ふんわりと心地よく、作り手のやさしさと温もりが伝わってくるようです。

- ①「ファーストシューズ」はお子さんが履きやすいように結び目が横に付いています。カラーバリエーションは、赤・青・緑・黄・オレンジ・茶・ナチュラル(革色)の7色。
- ②こちらは「ファーストシューズ作成キット」。カットされた革のほか、専用の糸や針、作り方の説明書も揃っています。
- ③幅広い年代に人気のキーホルダー。
- ④地域イベントへの出店時に限定販売されるミニチュアのランドセルとトートバッグ(ほぼ原寸です)。なんと同じ革でできた絵本やハンバーガーセットが入っているんです!
- ⑤⑥工房では、ひとつひとつの製品を丁寧に手作りしています。
- ⑦ファーストシューズを始め、製品のデザインを担当する齋藤知世さん。
- ⑧革が薄手で柔らかいので、出し入れがしやすいパスケース。
- ⑨イベントでは、子どもから大人まで手づくり体験できるワークショップも開催。
- ⑩⑪製品作りをしているスタッフのみなさんは手先がとて器用なんです!
- ⑫伊達市農林業振興公社・代表理事の長谷部雅彦さん(左)と事務局長の大河原広幸さん(右)。



⑫



⑪



⑩



⑨



一般社団法人  
伊達市農林業振興公社  
福島県伊達市霊山町  
掛田字段居45番  
TEL.024-564-2301  
<http://www.ino-date.com/>

※製品化する革はすべて放射線量を測定し、基準値以下のものを使っています。